

令和5年度 いのちの授業 事例集（小学校）【体育】

掲載数

43

地区	学年	教科等	テーマ	内容	参考事項（講師・教材等）
1 川崎市	小6	体育	薬物乱用防止教室	薬物とは何かスライドの写真を使って説明し、子どもたちのもつイメージよりもずっと身近にあるものだということを知らせた。特に中・高・大学生が関わった薬物乱用の事件事例を通して、友だちからの誘いやインターネットの広告など、気軽な気持ちで始めてしまったり、やめることが難しくなったりすることを伝えた。もし自分だったらどうするかを考えながら話を聞いていた。	少年相談・保護センター 相談員
2 川崎市	小4	体育	保健「体の発達発育」 【命の授業】	命のつながりの尊さ、親や家族、医療関係者の思いを知り、命の大切さに気付くことをねらいとした授業を行った。講師に助産師さんと保健師さんを招き、赤ちゃんが産まれてくるまでの妊婦の大変さや赤ちゃんを思う気持ち、産まれた時、その後の成長の過程などについて話を聞いた。胎児の心音を実際に聞いたり、赤ちゃん人形を抱いたりする経験をした。赤ちゃん人形を抱く体験は小グループに分かれ、生まれたての赤ちゃんを想起した活動ができ、本物のように大切に扱う経験ができた。	講師 助産師・保健師（母乳育児相談Babys・アイ、幸区役所みまもりセンター）
3 川崎市	小5	体育	けがの予防	身近なけがや事故の事例を皮切りに、小学生の事故の発生件数を調べると小学5年生が一番交通事故にあっている件数が多く、また下校時や放課後遊びの時間帯が一番事故にあっていることが分かった。 その結果から課題意識をもち、身近に潜む危険について考え、自分たちの町の危険な場所や事故に遭遇しやすいような場所をマップにまとめた。	警視庁 「小学生の交通人事故発生状況」
4 川崎市	小5	体育	保健「心の健康」 不安やなやみへの対処	思春期に移り変わる時期となった小学校5年生では、これまでよりも不安や悩みが増えてくる。感じている不安や悩みをうまく表現、発散することができずにより悩むことがないようしてほしい。安心して生活できるように自分に合った適切な対処方法を考え、話し合った。 授業を通して、不安がどんどん増えているので対処方法も増やせるようにしたいと必要感をもっていたり、自分に合った方法を授業で考えたこと以外にも試して見つけていきたいと意欲を高めていたりしていた。また、友達が不安を抱え込んでいたら相談に乗り、みんな心で軽くしながら生活できるようにしたいと支え合いながら生きることを目指そうとした児童もいた。	保健教科書（学研）

5	川崎市	小6	体育	「薬物と生命」	「薬物乱用」について学ぶことから、心・身体を大切にすることについて学んだ。また、薬物を乱用することによっておこる影響、健康でいることがどれだけ幸せか。自分を大切にしてほしいことなどについて話し合いをした。これから先、一人ひとり違う人生を歩んでいくが、それぞれの人生の先で、その児童なりに輝けるような人生を送ってほしいと考えた。自分、そして周りの人間を大切にすることについて考えるきっかけとなった。	
6	川崎市	小3	体育	体育 「バランスのよい食事について知ろう」	自分の健康に必要なバランスのよい食事について学習した。心身の成長や健康の保持増進の上で望ましい栄養や食事のとり方を理解し、自ら管理していく能力を身につけられるよう指導した。児童は健康には、運動・食事・休養睡眠が大切であることを学んだ。	・体育専科
7	川崎市	小4	体育	・ほけんの授業 「育ちゆくからだと私」 ・命の安全教育、文科省の動画をを用いての保健指導	4年生全クラスを対象に、男女の体と心の成長や変化について授業を行った。見た目の体の変化や、射精や月経といった体の内部の変化・成長を学んだり、目に見えない心の成長についても日常生活の中でわかりやすい例をあげながら伝えていった。児童たちはしっかり話を聞いてくれ、その後も質問等もたくさん出るなど、自分事として捉えられた児童が多かったように感じた。その後、10月には身体計測時に保健指導として、文科省の「命の安全教育」の動画をまじえてさらに自分の身を守るための知識や他者との距離感などを共に考え、学びを深めた。	養護教諭による授業。 (参考資料) 4年生の保健体育の教科書、文科省の命の安全教育に関する動画
8	相模原市	小4	体育	思春期の変化	保健領域では、自分の体の成長や体の変化について考え、現在も未来も健康な心と体でいるためには、どのような生活をするとよいかを考え実践した。	授業：児童支援専任・養護教諭
9	相模原市	小複合	体育	みんなのからだをまもろう！	寒い季節には、厚い布の衣服や重ね着などにより、暖かい着方を学んだり、けがをしてしまったときに、どのようにすればよいのか考えたりしながら、自分の体を守る大切さに気づけるようにした。衣服については、洋服の形や布の種類、着ている衣服の枚数などが関係していることに気づいていた。また、けがについては、簡単な手当の方法を知り、自分にできる手当の方法を進んで考える児童がいた。さらに、自分で判断や手当ができないときや、大きなけがのときは、すぐに近くの大人に知らせる必要があることも全体で確認した。	家庭科教科書 保健教科書
10	相模原市	小複合	体育	楽しい夏休みを過ごそう ～熱中症にならないための予防法～ (保健分野)	絵本に登場する子どもの表情から、熱中症の疑いがあることを考えさせる。また、絵本の場面から熱中症を起こす原因について考えさせた。絵本の内容や教師の発問から、熱中症に関する回答が返ってきた。軽度の熱中症になった児童が、自身のことを振り返りながら、熱中症にならないための予防策を考え、友だちの前で発表することができた。	【使用教材(絵本)】 「どうしてねっちゅうしょうになるの？」 金の星社 【対象児童】 特別支援学級 知的級

11	相模原市	小4	体育	体の成長とわたし	思春期に起こる変化について、体の外側の変化（目で確認することのできる変化）と体の中の変化（目で確認することのできない変化）に分けて学習。体が成長し、大人になっていく過程を学び、成長に見通しをもった児童が多くいた。命のもとがあることを知り、自分もいずれ父親、母親になることをイメージした児童もいた。命のつながりを感じる授業となった。	担任と養護教諭で指導
12	横須賀市	小4	体育	育ちゆくからだ とわたし	思春期に起こる男女の体の外見上の変化について学習した。体の変化は誰にでも起こること、個人差があることを知った。周囲との違いなど、変化への戸惑いについても、当然起こりうることであり、身近な大人（親、担任、養護教諭等）に相談できるとよいと考えていた。ジェンダーバイアスなど昨今の課題にも触れつつ、児童自身が自分の心身の変化について考えることができた。	
13	横須賀市	小6	体育	病気の予防	6年生の保健学習では、感染症や生活習慣病の予防、喫煙・飲酒・薬物乱用の害などを取り上げ、なぜ病気になるのか、どうすれば病気を防ぐことができるか、喫煙や飲酒、薬物の乱用の危険を理解し、自分や周りの健康を守ることを学んだ。 そして、『薬物乱用防止教室』を依頼し、DVDや講師の方の説明で薬物による害や薬物乱用のこわさについて教わった。振り返りでは、「自分や周りの人のためにも、薬物は絶対にやってはいけないと思った」などと自分の命を大切に生きようと感じている様子が見られた。	「小学保健」 (光文書院)
14	横須賀市	小複合	体育	命の安全教育	「自分のからだを大切にしよう」という目的で授業を行なった。自分の体の部分で大切な箇所はどこであるかをどの児童も理解できるように、絵本やイラストを用いて授業を展開した。まとめの活動の中で、ワークシートに他人から性的な触れられ方などをされた際にどのようにすればよいかを考える場面で、児童が「その場から逃げる」「大きな声でやめてと言う」「大人に伝える」といった具体的な対応のイメージを持つことができた。	養護教諭 支援学級1～6年
15	横須賀市	小5	体育	いのちの安全教育 ～心と体の距離感～	体と心の距離感について、自他の違いに気づき、関わり方を考える。プライベートゾーンの部位とその大切さについて知り、「見ない・見せない・さわらない」ことを基本に、自他の許容範囲の違いや価値観の違いを知り、日常生活での仲間とのかかわり方を考える時間とした。 子どもたちは、自分を大切にすること、自分の感覚と相手の感覚の違いをふまえて、相手を思いやる言動が、相手の命を大切にすることにつながることに気付いていた。	理科「人のたんじょう」 保健「心の健康」 道徳「生命の尊重」
16	横須賀市	小5	体育	けがの防止	本校の6月のけがの件数から打撲やねんざ、突き指といったけがが多いことを示し、そのようなけがをしたときにできる処置について考える授業を行った。まず、RICE処置やそれぞれのけがの手当てを学んだ。その後、提示された事例についてどのように処置を行うか実技を行った。自分でできる処置についてだけでなく、もし命にかかわるようなけがをした人を見つけた時には、1人で解決せずに大人を呼ぶことの大切さについても講話を行い、自分たちも救命活動にかかわることができる自覚につなげた。	講師は本校養護教諭

17	横須賀市	小5	体育	けがの手当て	<p>スクール救命教室の講師の方からAEDの使い方や、応急手当の方法を学び、命の大切さや、共に助け合うことの大切さについて考えることができました。胸骨圧迫の演習では、器材を使って行うことで、児童が真剣に取り組む姿が見られました。実際に命を救った小学生の事例を聞き、自分たちでも命を救うためにできることは何か考えることができました。</p>	講師：消防局救急課 2名
18	横須賀市	小5	体育	スクール救命教室	<ul style="list-style-type: none"> ・「もしも友だち・家族が目の前で倒れたら…」自分たちはどのように行動するのが正しいか考えた。 ・胸骨圧迫は早く、強く、絶え間なく行うことで、命を救う確率が大幅に上がる。 ・傷病者を発見したら自分だけで解決しようとせず、近くの友だちや先生に助けを呼び、分担することで落ち着いて人命救助を行うことができる。 <p>以上のことについて考え、実技を行ったことで、その難しさと重要性を体感することができた。</p>	講師は救命隊員と指導スタッフ。
19	横須賀市	小4	体育	思春期の体の変化	<p>思春期に起こる体の変化について学習した後、性について学習した。体の性と心の性が存在し、世の中には多様な性の在り方があるということを知った。女らしくない、男らしくないという言葉に悩んだり、自分の個性を否定される辛さを感じたりしている人がいることを知り、自分を否定されたり、他の人と比べられたりすることは誰にとっても嫌なことだということを再確認していた。</p>	(講師) 本校養護教諭
20	湘南三浦	小4	体育	いのちの教室	<p>命の始まりから赤ちゃんが生まれるまでの話を聞いた。卵子の大きさを体感したり、赤ちゃん人形の抱っこ体験をした。保護者の方の妊娠・出産時の思い出を実際に聞いたり、妊婦さんの話をビデオで見たりした。</p> <p>さらに、思春期の話を聞き、体も心も大きく変化する時期に自分たちもいることを理解した。不安なことがあったら一人で抱え込まず、信頼する人に相談することを学んだ。</p> <p>自分事として話を聞いたり、体験している子どもが多く、「これからも自分の命を大切にしよう」という感想が多く見られた。</p>	鎌倉市市民健康課 保健師・助産師
21	湘南三浦	小4	体育	保健 二次成長	<p>3学期に二次成長の学習を行った。二次成長は体つきが大きく変化していくが、それは子どもを産むための準備でもあるということを知ることができた。これから起きる変化に驚いたり戸惑ったりした子もいたが、新しい命の誕生のためなのだとわかると二次成長は大切なことなのだと納得したようだった。</p>	
22	湘南三浦	小6	体育	健康と命	<p>病気の起こり方や生活の仕方と病気（生活習慣病）などを学ぶことを通じて、毎日の食事や睡眠の取り方などが将来に大きな影響を及ぼすことを知ることができた。日々の生活をより良いものにしたたり、問題点を改善することが命を大切にすることにつながるということを考えるきっかけとなった。興味をもった学習内容について学習端末を活用して、より深い知識を得るなどすることもできた。</p>	(使用教材) 学研・保健体育5・6 年「病気の予防」

23	湘南三浦	小5	体育	病気・けがの予防	保健体育の病気・けがの予防について、養護教諭や用務員の協力を得ながら、身近な怪我や病気についての理解と、自分で出来る対応について学んだ。	養護教諭 用務員
24	湘南三浦	小4	体育	生命の誕生	4年生の保健体育では、体の発達の単元の学習を行う。自分自身の体が大人の体に変化をし、また生命の誕生にもつながることを学習した。また、担任教諭の妊娠に伴い、絵本を用いて赤ちゃんがお腹の中で成長し、お母さんから産まれてくることを学習した。子どもたち自身もそのようにして産まれてきたことを理解し、お家の人へ感謝をしたいと話す児童もいた。	(参考資料) 絵本「トントコちゃん」 赤ちゃんとママ社 石黒なみこ：作
25	湘南三浦	小5	体育	海の安全に対する知識を学ぶことにより、水難事故防止に役立つ。	着衣泳を通し、水の怖さを体験することで、自分の身を守る方法を知ることができた。	
26	湘南三浦	小6	体育	表現運動（組体操）	運動会へ向けた表現（組体操）練習期間の中では、事故やケガの防止等の確認をした。また、自分の命を預けること、他人の命を預かることの意味を考えさせ、命の重要性について再認識させた。	5・6年合同で実施
27	湘南三浦	小5	体育	体の成長とわたし	1年生から今までの身長伸びを測定し、自分たちの成長を実感した。宿泊行事(キャンプ)を前に、養護教諭と連携し、思春期に表れる変化を学び、命の元になる精子と卵子について学習した。感想等で命の大切さについて関心を寄せている児童もいた。	養護教諭
28	湘南三浦	小6	体育	薬物乱用防止	薬剤師から違法薬物やオーバードーズについて話を聞いた。服用を繰り返すとその量も増え、自力では、やめることができなくなり、社会生活が送れず、命を落とす危険性があることを学習した。身近な人から違法薬物に誘われた時の断り方や隠語などについても学習した。	薬剤師
29	湘南三浦	小5	体育	救命救急	救命救急講座で万が一傷病者を発見した場合の対応を学習した。AEDの使い方も学習し、万が一の場合に備えることができた。 情報モラル教室では、SNSの正しい使い方を学習した。正しい使い方をしないとイジメなどにつながり、悩むと自殺まで追い込まれてしまった事案から、トラブルが起きないための使用方法について学習した。	市消防署
30	湘南三浦	小6	体育	薬物乱用防止教室	子どもたちにとって、身近な中学生や高校生が薬物に手を出してしまった子の話を画像と共に聞いた。一度でも薬物に手を出してしまうと、人生が失われてしまう恐ろしさ、薬物を勧められる場合、やせ薬やアイスなど楽しそうな名前に変えて誘惑があることを学んだ。SNS等で昔よりも簡単に薬物に近づいてしまう現代の危険な状況や、誘われてもきっぱりと断る意思の強さが大切であることを学ぶことができた。	湘南三浦教育事務所 教育指導員

31	湘南三浦	小2	体育	水泳指導・着衣永	水難事故に備えて、もし溺れてしまったらどうするのか、溺れている人を見つけたらどうしたらよいか学習した。小学校生活初めての水泳授業であるため、着衣での体験は避けたが、ペットボトルなどで浮くための方法や、溺れている人に対して自分が手を伸ばすことなく、道具を使ったり大人を呼ぶことなど、職員の実演を見ながら学んだ。	
32	湘南三浦	小6	体育	薬物乱用防止教室	学校薬剤師との連携により実施。薬物の種類や影響について触れ、自分の生活圏内には絶対にならないと言い切れない実態を児童が聞き、自分自身の身を守ること、命＝生き方を守ることの大切さについて学習をした。その中で、知人から勧められた時、断ることの難しさなどから、児童が真剣に考える場面があった。	学校薬剤師
33	県央	小6	体育	応急手当講習会	AEDの役割（AEDを使用することで救える命がある）、どんなところに設置されているか、等の話聞いた後、実際に扱い方を教えてもらい、練習キットを用いて胸骨圧迫の心臓マッサージの体験をした。	消防署職員
34	県央	小6	体育	保健 薬物乱用の害と健康 「薬物乱用防止教室」	体育館の中で講義を受けるグループと、広報車の中にあるレプリカを見学するグループに分かれて行った。「薬物は氷やラムネみたいな形があり、食べてしまいそうだけど、十分に警戒して気をつけたい。」「薬物を断れない状況だったとしても、勇気を出して断ったほうがいい。」「『ダメ、ゼッタイ』のスローガンのもと、薬物乱用を『させない・しない』ようにしていきたい。」など、薬物乱用防止に対する思いをもつことができた。SNSの普及によって、良いものも悪いものも身近にある今、自分の身を自分で守ることができるかどうか重要であると、最近のニュースと関連づけて考える児童も見られた。	神奈川県警察職員
35	県央	小4	体育	体の発育・発達	【保健の指導内容】 年齢と共に変化する心や体に気付き、受け止め、より良い発育・発達のためにどうすればよいか考えたり、考えたことを伝え合ったりした。	
36	県央	小4	体育	わたしたちの成長	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちの人生について ・体の中はどうなっているのか？ ・大人になっていくにつれて体にどんな変化が表れてくるのか？ ・男女の違いはあるのか？ 	養護教諭に語っていただくことで、自分の体について知り、考えるようにさせる。 成長の仕方に個人差があり、自他ともに大切にすることに気付かせる。
37	中	小6	体育	病気の予防 薬物乱用の害	若者が薬物に手を出してしまうケースが増えている中、薬の効果と危険性についてのDVDを視聴した。合法ドラッグとしてお香やバスソルトとして販売されているものや市販薬を必要以上に服用してしまうオーバードーズの話も出た。一度薬物中毒になってしまうと、やめるのは難しく、自分自身や身近な人を傷つけてしまう。薬物から身を守るためには、薬物のゲートウェイとなる飲酒や喫煙を断ること、薬物そのものを断る勇気をもつこと、自分を大切にすることが大事であると学んだ。	講師 薬物乱用防止指導員 DVD

38	中	小5	体育	水泳	4年ぶりの水泳の学習に向け、事前にお家の人と水泳に関する児童の実態調査を行った。コロナ禍の3年間の間にプールや海水浴に行ったり習い事として水泳をしていたりする家庭での経験に差があり、児童に聞いても不安に感じている子が目立った。そこで、水泳の学習の見通しが持てるよう事前指導を行い、途中男女で教室を分け、性教育を兼ねて時間を確保した。また、過去3年のブランクを考慮し、高学年では全員が水泳への不安感を払しょくできるよう、レクリエーション的な学習活動を中心に行った。その結果、入水することへ不安感を抱いていた児童も、夢中になって活動することができた。	保健「心の健康」
39	中	小4	体育	体の成長とわたし「思春期における体と心の変化」	これまでの成長を振り返ったり、今現在の自分の体の変化を見つめ、人間の成長や発育について考えた。思春期という時期を迎え、自分の体の変化は誰にでも起こりうることや心の変化などを学習した。児童も、命の誕生は奇跡であることや、母親が命をかけて産んでくれたこと、愛されて大切に育ってきたことを感じていた。	
40	中	小4	体育	育ちゆく体とわたし～体の中で起こる変化～	思春期に起こる体の変化のひとつに男子では射精、女子では月経が挙げられる。射精と月経の仕組みについて男女一緒に学ぶことで、お互いの尊重につながった。また、男女差だけでなく変化の仕方や起こる時期には個人差があることを学び、個々の成長を尊重する意識が芽生えた。	養護教諭による授業
41	中	小6	体育	講演「いのちの大切さ」	「生命誕生、いのちの大切さ」について講師を招き、研修を行った。生まれる前から命は始まっていること、命は大切に生きるとは素晴らしいこと。また、母親の卵巣からできた卵子と父親からできた精子が1051兆2千億分の1の確率で受精すること。受精卵は、約280日が経過すると、赤ちゃんとして誕生することなどを教わった。児童が新生児の人形を抱っこした感想として、「妹を抱っこした時より重かった。命が大切なのがわかった。」と書いていた。最後に、人の体や心を大切にしてほしいと伝えられた。	湘南大磯病院看護師兼助産師 5年生1名も参加
42	県西	小4	体育	育ちゆく体とわたし	年齢と共に成長してきた自分の姿を、健康手帳を使いグラフに表して振り返っていった。思春期になると自分たちの体に変化がおき、その変化に個人差があることや、異性への関心が高まることを知った。こうした成長が、命の誕生につながる大切な変化であることを知り驚いていた。また自分の健康は自分自身だけのものではなく、自分の未来の子どもにつながっていくことを伝えた。	教科書 健康手帳
43	県西	小4	体育	保健 体の発育と発達	「体の中で起こる変化」の学習内において赤ちゃんの誕生についての話を聞き、生命の尊さについて学んだ。	みんなのほけん 3. 4年(学研)